CASBEE-新築(簡易版)2010年版

茅ヶ崎駅ビル

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築（簡易版）2010

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

スコアシート　　竣工段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.4**
Q1 室内環境			**0.40**			**3.3**
1 音環境		**2.6**	0.16		-	**2.6**
1.1 騒音		**3.0**	0.40		-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00		-	
2 設備騒音対策			-		-	
1.2 遮音		**3.0**	0.40		-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.92		-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.06		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.01		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.01		-	
1.3 吸音		**1.0**	0.20		-	
2 温熱環境		**3.1**	0.36		-	**3.1**
2.1 室温制御		**3.3**	0.50		-	
1 室温		3.0	0.50		-	
2 湿度制御			-		-	
3 外皮性能		3.0	0.18		-	
4 ゾーン別制御性	各店舗ごとに系統を分け、各店舗ごとに運転制御が可能。	4.0	0.32		-	
5 熱源台数制御			-		-	
6 自動制御			-		-	
7 熱源システム効率			-		-	
8 空調システム			-		-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20		-	
2.3 空調方式		**3.0**	0.30		-	
3 光・視環境		**3.7**	0.23		-	**3.7**
3.1 昼光利用		**2.9**	0.55		-	
1 昼光率		1.0	0.03		-	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.97		-	
3.2 グレア対策		**1.0**	0.02		-	
1 外付ブラインド			-		-	
2 昼光制御		1.0	1.00		-	
3 他のグレア対策						
3.3 照度		**3.0**	0.01		-	
3.4 照明制御	エリア毎の照明点滅が可能で、中央監視設備による遠方点滅，部分点滅およびプログラム制御が可能である。	**5.0**	0.43		-	
4 空気質環境		**3.5**	0.26		-	**3.5**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50		-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用している。	4.0	1.00		-	
2 アスベスト対策			-		-	
3 ダニ・カビ対策			-		-	
4 シックハウス対策			-		-	
4.2 換気		**3.0**	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.49		-	
2 自然換気性能		3.0	0.02		-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.49		-	
4 他の対策			-		-	
4.3 運用管理		**3.0**	0.20		-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	-	-	**3.4**
1 機能性		**3.5**	0.40		-	**3.5**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40		-	
1 広さ・収納性			-		-	
2 高度情報通信設備対応			-		-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		**3.1**	0.30		-	
1 広さ感・景観		1.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.25		-	
3 内装計画	フロアごとのコンセプトに沿って内装を計画。	5.0	0.42		-	
1.3 維持管理		**4.5**	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	ビル管理会社による維持管理を行う。	5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	ビル全体での管理を行う。	4.0	0.50		-	
3 長期修繕計画			-		-	
2 耐用性・信頼性		**3.2**	0.31		-	**3.2**
2.1 耐震・免震		**3.0**	0.48		-	
1 耐震性		3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.0**	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-	

2.4 信頼性			4.3	0.19		-	
1	空調・換気設備	配管は吊配管としている	4.9	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	受水槽、高架水槽は分離して設置	5.0	0.20		-	
3	電気設備	非常用発電設備を備えている	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	メタルケーブル，光ケーブルの導入により通信の多様化を図っている。MDF室の地下設置を避け、浸水の危険を回避している。	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29		-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		-	
1	階高のゆとり	各階高4.0m以上とする。	5.0	0.55		-	
2	空間の形状・自由さ	210m/2560㎡＝0.08＜0.1	5.0	0.45		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域と共生できるよう導線を計画	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		周辺環境を考慮した設備機器・後方施設の配置を計画	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制		△PAL24.3%～△PAL34.0%	4.5	0.30		-	4.5
2 自然エネルギー利用			2.9	0.20		-	2.9
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		インバーター内蔵の空調換気機器を積極的に採用	5.0	0.30		-	5.0
集合住宅以外の評価（ERRによる評価）		ERR=37.2%	5.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.5	0.20		-	3.5
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		消費電力目標値を設定し、中央監視にて管理	4.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		自動水栓等節水機器を用いている。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63		-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		―	3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		―	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		設備・電気部材は原則躯体仕上げ材への埋め込み及び直接固定はせず、容易な分離作業を可能とした	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料の採用	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤	ガス消火を計画していない	-	-		-	
2	発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率69%	4.2	0.33		-	4.2
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	交通量調査による必要台数を設置	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの分別、計量を行っている	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.50		-	
2	振動		3.0	0.50		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制	校庭を芝生としている	5.0	0.01			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境に配慮し、設定照度を再検討した	4.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30		-	